



若者の市外転出の意向状況にかかる アンケート調査

令和2年3月実施

— 結果報告書 —

令和2年3月
新潟市政策企画部



—目次—

I 調査の概要	1
II 調査の設問項目	3
III 対象者の基本属性	4
IV 進路のこと等について	9
V 新潟市への愛着について	25

I 調査の概要(1)

新潟市では、人口減少対策に取り組んでおり、若者が進学及び就職のタイミングで市外へ転出している現状を踏まえ、若者の市外転出の意向状況を把握し、今後市が施策立案する際の参考とすることを目的に調査を実施しました。

調査の実施規模

調査の実施規模は、市内にお住いの令和2年4月1日現在で、

- ① 16歳から18歳までの男女個人（以降、「高校生等」と表記する）2,000名、
 - ② 19歳から22歳までの男女個人（以降、「大学生等」と表記する）2,000名、
- 合計4,000名に対し 設問内容の一部を違えながら実施しました。

実施方法及び実施時期

- ① 実施方法は、返信用封筒を同封した調査票の郵送配布・郵送回収で行いました。
また、回収においてはスマートフォン等からの入力受付も併用しました。
- ② 実施時期は、令和2年3月期に行いました。

有効回答率29.1%

合計1,163名（うち高校生等736名、大学生等427名）から回答がありました。
対象者別の有効回答率は、高校生等が36.8%、大学生等が21.4%でした。

報告書の見方

- ① 基数となる実数は、「n」として掲載し、各グラフの比率は「n」を母数とした割合を表しています。
なお、属性データの回答状況によって、全体集計と、対象別や属性別ごとの集計における基数が異なる場合があります。
- ② 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。また、複数回答形式の設問については、すべての比率が100%を超えることがあります。
- ③ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

【受付画面例】

はじめに、あなたが自身のこれに答えていただきます。

問1: あなたの性別について、あてはまるものを一つ選んでください。

男性
 女性

問2: あなたの年齢について、あてはまるものを一つ選んでください。
(令和2年4月1日現在)

16歳
 17歳
 18歳

問3: あなたの現在の状況について、あてはまるものを一つ選んでください。

高校1年生
 高校2年生
 高校3年生
 高等専門学校に通っていない

戻る

I 調査の概要(2)

集計方法について

- 集計にあたり、一部の設問の「全体結果」については、回答者の年齢層（調査種別）・性別の偏りを補正し、回答者の構成が全体の縮図となるよう、回答者の年齢層（調査種別）及び性別の集計ウェイトを乗じて標本数を規正しました。また、該当する設問につきましては『**☆全体結果はウェイト付集計**』の表記を付しています。

集計結果は、この規正標本数を基に回答者の割合（百分比%）等を算出してあります。

なお、規正標本数は、乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入してあるため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。

「集計ウェイト」（配布数構成比÷有効回収構成比）

配布数構成比

	調査全体	高校生等 男性	高校生等 女性	大学生等 男性	大学生等 女性
A)	100.0%	25.550%	24.450%	25.725%	24.275%
	4,000	1,022	978	1,029	971

有効回収結果

	調査全体	高校生等 男性	高校生等 女性	大学生等 男性	大学生等 女性	高校生等 性別不明	大学生等 性別不明
B)	100.0%	27.869%	35.462%	15.876%	20.794%	-	-
	1,159	323	411	184	241	2	2

集計ウェイト

A/B)	調査全体	高校生等 男性	高校生等 女性	大学生等 男性	大学生等 女性	高校生等 性別不明	大学生等 性別不明
	-	0.917	0.689	1.620	1.167	1.000	1.000

Ⅱ 調査の設問項目

対象者の基本属性

- ◎. 性<共通設問>
- ◎. 年齢<共通設問>
- ◎. 現在の状況（学年等）<共通設問>
- ◎. 学校所在地（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 学校名（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 居住区<共通設問>
- ★. 出身地<大学生等のみ設問>
- ★. 新潟市への在住理由<大学生等のみ設問>

進路のこと等について

- ◆. 進路予定<高校生等のみ設問>
- ◎. 希望する職業・職種<共通設問>
- ◎. 希望する職業・職種を選択した理由（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 将来の職業等を考え始めた時期（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 今後の居住希望地域<共通設問>
- ◎. 希望する卒業後の居住地を選択した理由<共通設問>
- ★. 新潟市に残っても良い条件（該当者のみ）<大学生等のみ設問>
- ◎. 新潟市への帰郷意向（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 帰郷したい理由（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 帰郷したくない理由（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 今後の新潟市との関わり方について（該当者のみ）<共通設問>
- ◆. 進路の相談相手<高校生等のみ設問>
- ★. 人口減少を感じる場面<大学生等のみ設問>
- ★. 人口減少を抑制するためのアイデア（自由記載）<大学生等のみ設問>

新潟市への愛着について

- ◎. 新潟市への愛着の有無<共通設問>
- ◎. 愛着のある事柄（該当者のみ）<共通設問>
- ◎. 新潟市内の企業の認知程度<共通設問>
- ◎. 地元企業に関する情報の入手経路<共通設問>

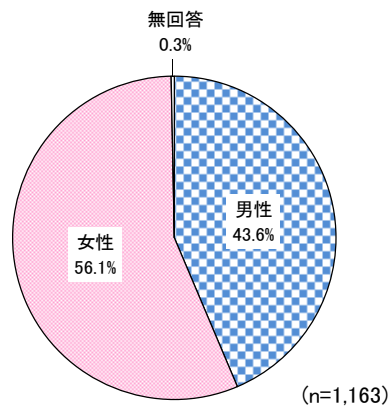
摘要

- ◎=共通設問
- ◆=高校生等のみ設問
- ★=大学生等のみ設問

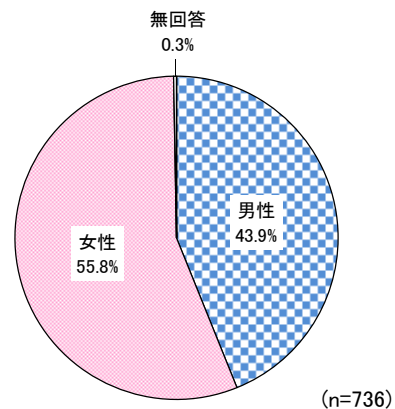
Ⅲ 対象者の基本属性(1)

性

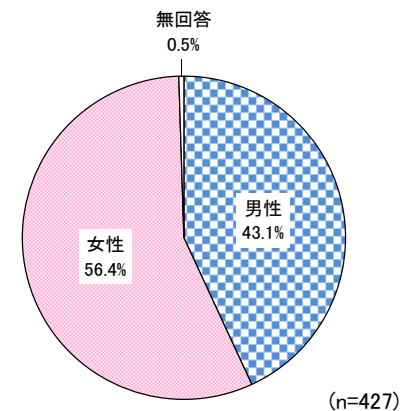
【全体結果】



【高校生等】

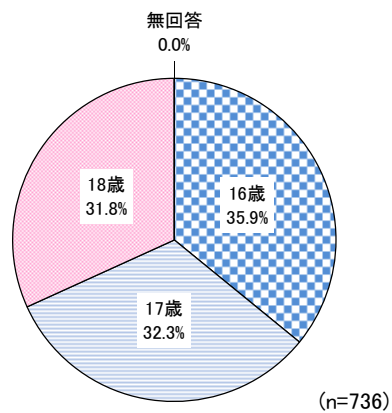


【大学生等】

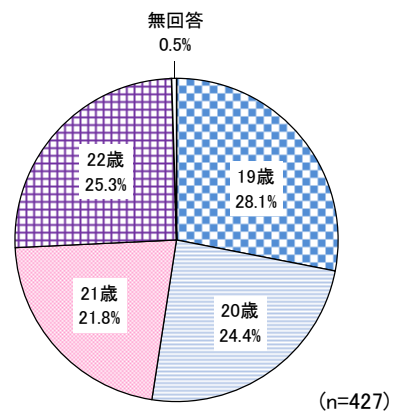


年齢

【高校生等】



【大学生等】

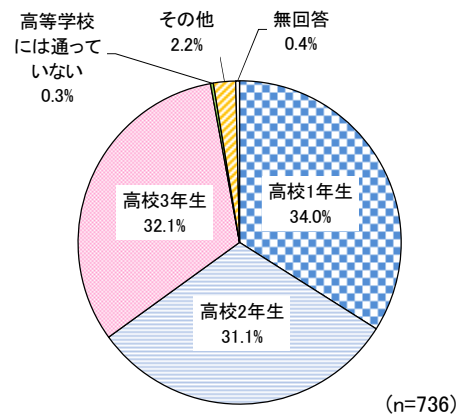


- 女性からの回答が比較的多く寄せられています。
- 年齢は各歳に分散しています。

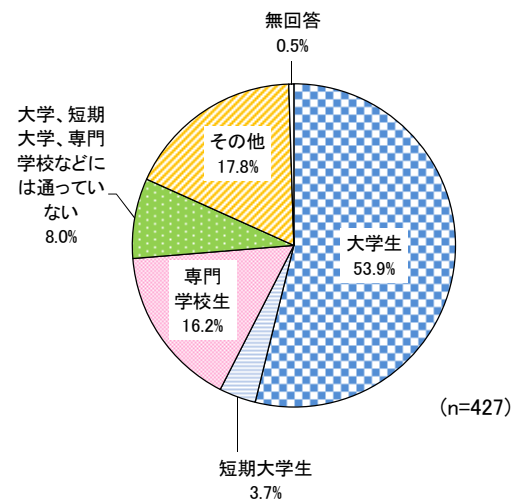
Ⅲ 対象者の基本属性(2)

現在の状況 (学年等)

【高校生等】

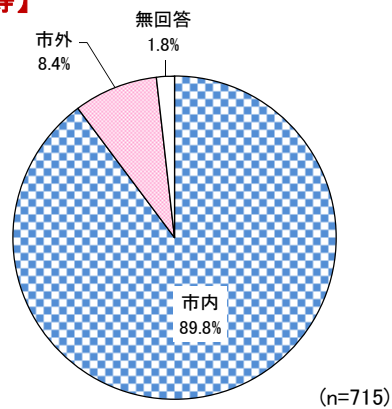


【大学生等】

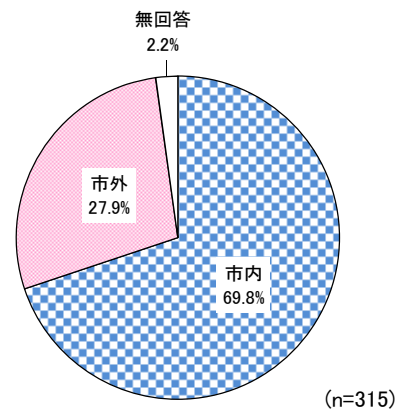


学校所在地

【高校生等】



【大学生等】



➤ 【高校生等】 【大学生等】ともに市内居住者が多数を占めています。

Ⅲ 対象者の基本属性(3)

高校生等の通学している学校一覧

【県立】

学校名	件数
新潟高等学校	57
新潟中央高等学校	41
新潟南高等学校	56
新潟江南高等学校	43
新潟西高等学校	27
新潟東高等学校	19
新潟北高等学校	6
新潟工業高等学校	15
新潟商業高等学校	39
新潟向陽高等学校	11
巻高等学校	20
巻総合高等学校	17
豊栄高等学校	2
新津高等学校	15
新津工業高等学校	9
新津南高等学校	10
白根高等学校	6
新潟翠江高等学校	3

【市立】

学校名	件数
万代高等学校	27
明鏡高等学校	3
高志中等教育学校	14

【私立】

学校名	件数
新潟明訓高等学校	29
北越高等学校	36
新潟清心女子高等学校	6
敬和学園高等学校	13
新潟第一高等学校	32
東京学館新潟高等学校	32
日本文理高等学校	15
新潟青陵高等学校	22
開志学園高等学校	4

▶ 「新潟高等学校」や「新潟南高等学校」が特に多くなっています。

Ⅲ 対象者の基本属性(4)

大学生等の通学している学校一覧

【国公立大学】

学校名	件数
新潟大学	70
新潟県立大学	8

【私立大学】

学校名	件数
新潟薬科大学	13
日本歯科大学(新潟生命歯学部)	0
新潟国際情報大学	10
新潟青陵大学	13
新潟医療福祉大学	32

【短期大学】

学校名	件数
新潟青陵大学(短期大学部)	8
新潟工業短期大学	2
日本歯科大学(新潟短期大学)	1
明倫短期大学	3

【専門学校】

学校名	件数
新潟情報専門学校	1
新潟コンピュータ専門学校	5
大原医療秘書専門学校	0
新潟工科専門学校	0
新潟高度情報専門学校	2
新潟会計ビジネス専門学校	1
日本自然環境専門学校	1
新潟ビジネス専門学校	2
フォーラム情報アカデミー専門学校	0
国際メディカル専門学校	3
新潟医療技術専門学校	5
新潟保健医療専門学校	3
新潟看護医療専門学校	0
新潟こども医療専門学校	3
にいがた製菓・調理師専門学校えぶろん	0
国際調理製菓専門学校	2
シェフパティシエ専門学校	4
国際ビューティモード専門学校	0
新潟調理師専門学校	2
新潟理容美容専門学校	1

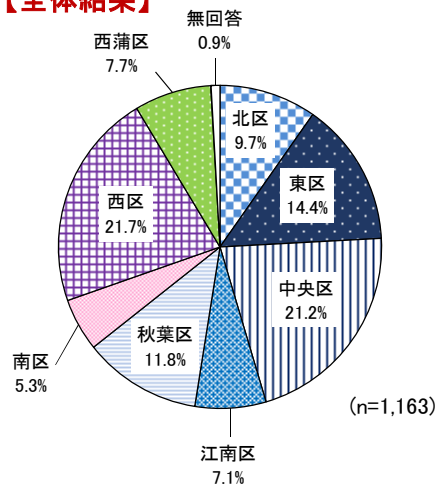
学校名	件数
国際こども・福祉カレッジ	1
日本こども福祉専門学校	0
新潟国際自動車大学校	2
新潟日建工科専門学校	0
新潟医療福祉カレッジ	2
新潟公務員法律専門学校	1
大原簿記公務員専門学校新潟校	9
アップルスポーツカレッジ	1
国際トータルファッション専門学校	0
国際外語・観光・エアライン専門学校	1
国際ペットワールド専門学校	0
国際ホテル・ブライダル専門学校	2
国際映像メディア専門学校	0
新潟デザイン専門学校	1
国際音楽エンタテイメント専門学校	0
日本アニメ・マンガ専門学校	0
新潟美容専門学校ジャパン・ビューティ・アカデミー	2
新潟農業・バイオ専門学校	1
新潟柔整専門学校	0
ひまわり幼児教育専門学院	0

▶ 「新潟大学」が最も多くなっています。

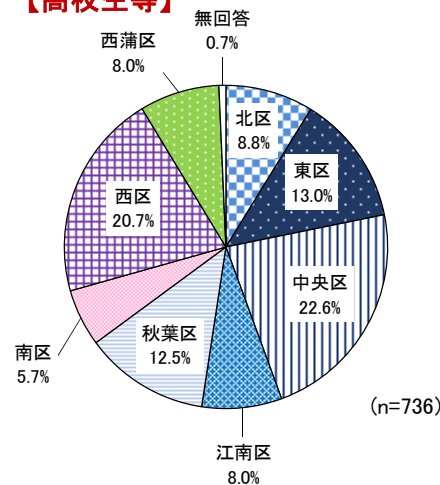
Ⅲ 対象者の基本属性(5)

居住区

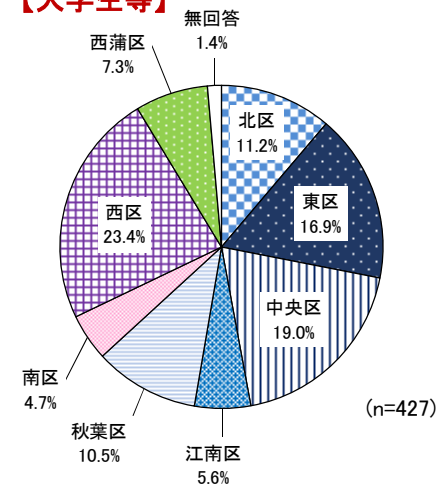
【全体結果】



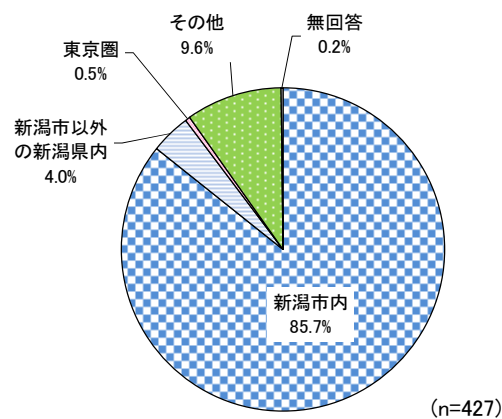
【高校生等】



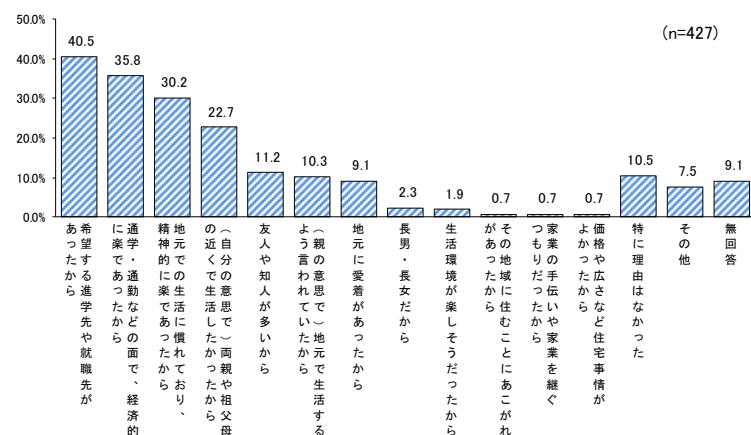
【大学生等】



出身地 (大学生等のみ設問)



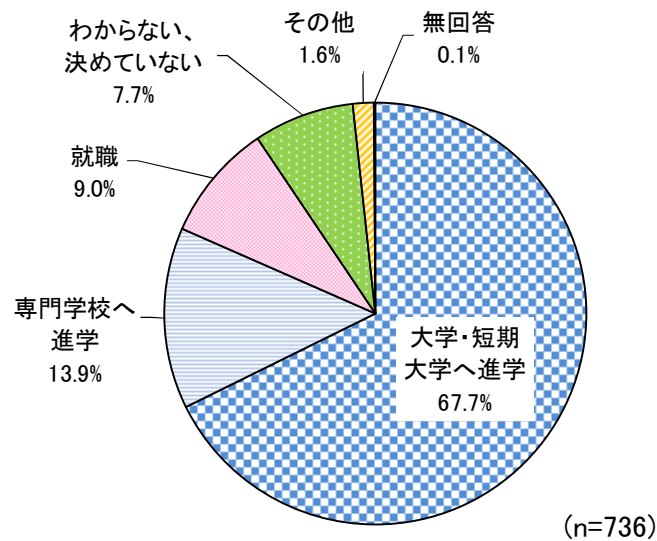
新潟市への在住理由 (大学生等のみ設問)



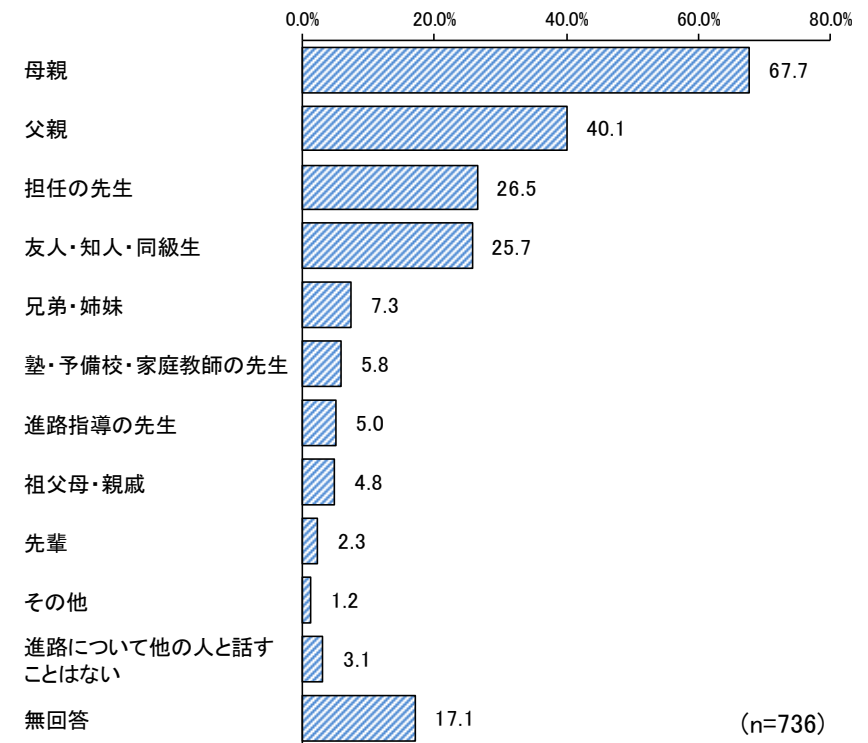
- 居住区別、出身地別にみた構成は上図のとおりです。
- 新潟市への在住理由として「希望する進学先や就職先があったから」が多く挙げられています。

IV 進路のこと等について(1)

①今後の進路予定<高校生等のみ設問>



②進路の相談相手<高校生等のみ設問>

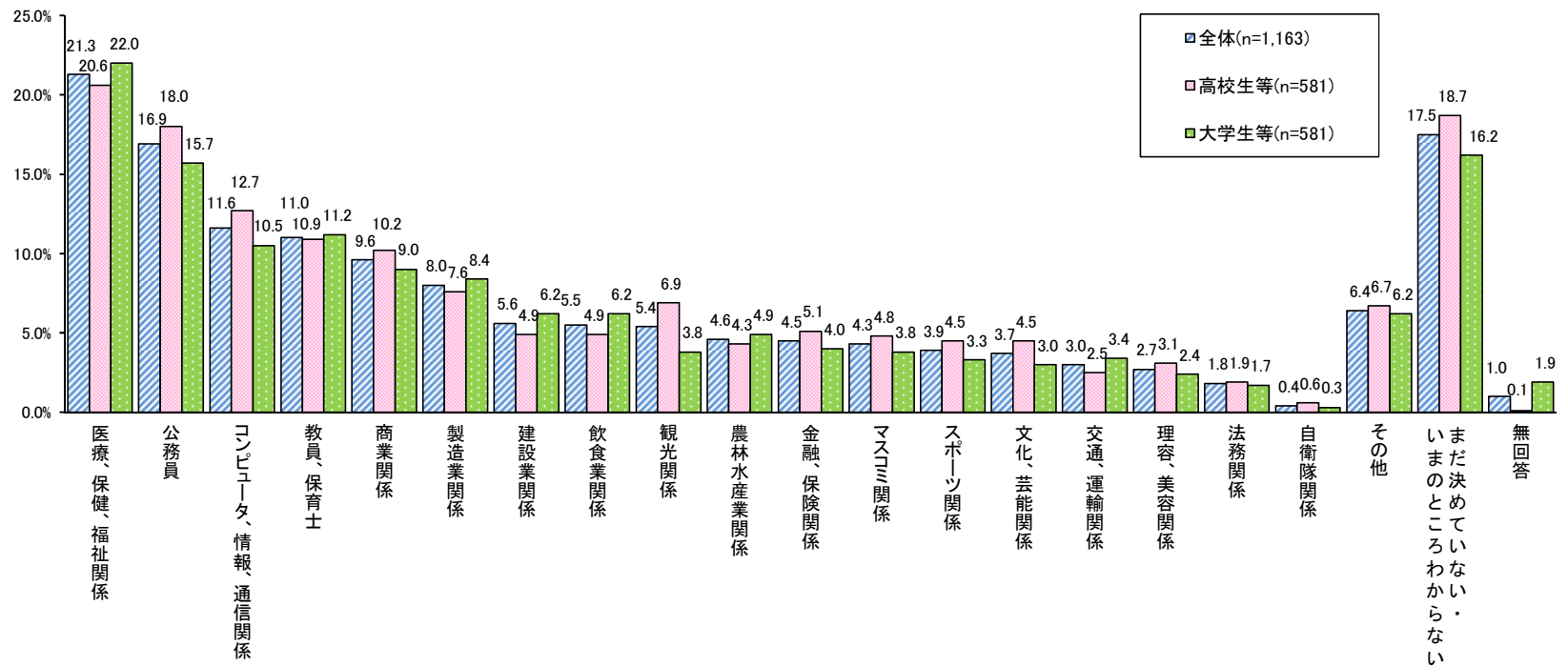


- 今後の進路予定は「大学・短期大学へ進学」が約3分の2を占めています。
- 3人に2人程度は「母親」に進路を相談しています。

IV 進路のこと等について(2)

③希望する職業・職種

☆全体結果はウェイト付集計

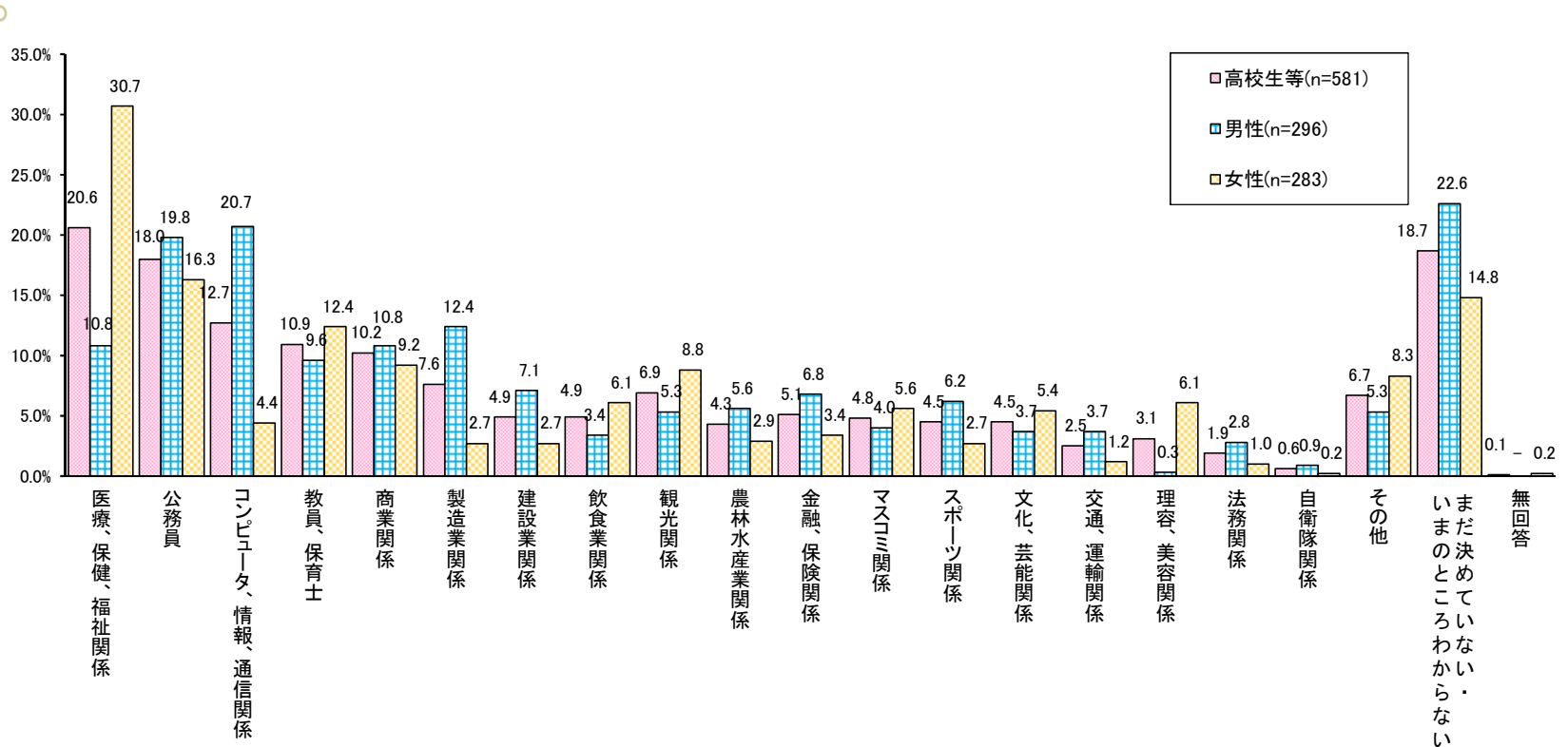


- 【高校生等】【大学生等】ともに「医療、保健、福祉関係」が最も多くなっています。
- 一方で「まだ決めていない・いまのところわからない」との回答は、【高校生等】【大学生等】ともに2番目となっています。

IV 進路のこと等について(3)

③希望する職業・職種<性別結果(高校生等調査)>

☆全体結果はウェイト付集計

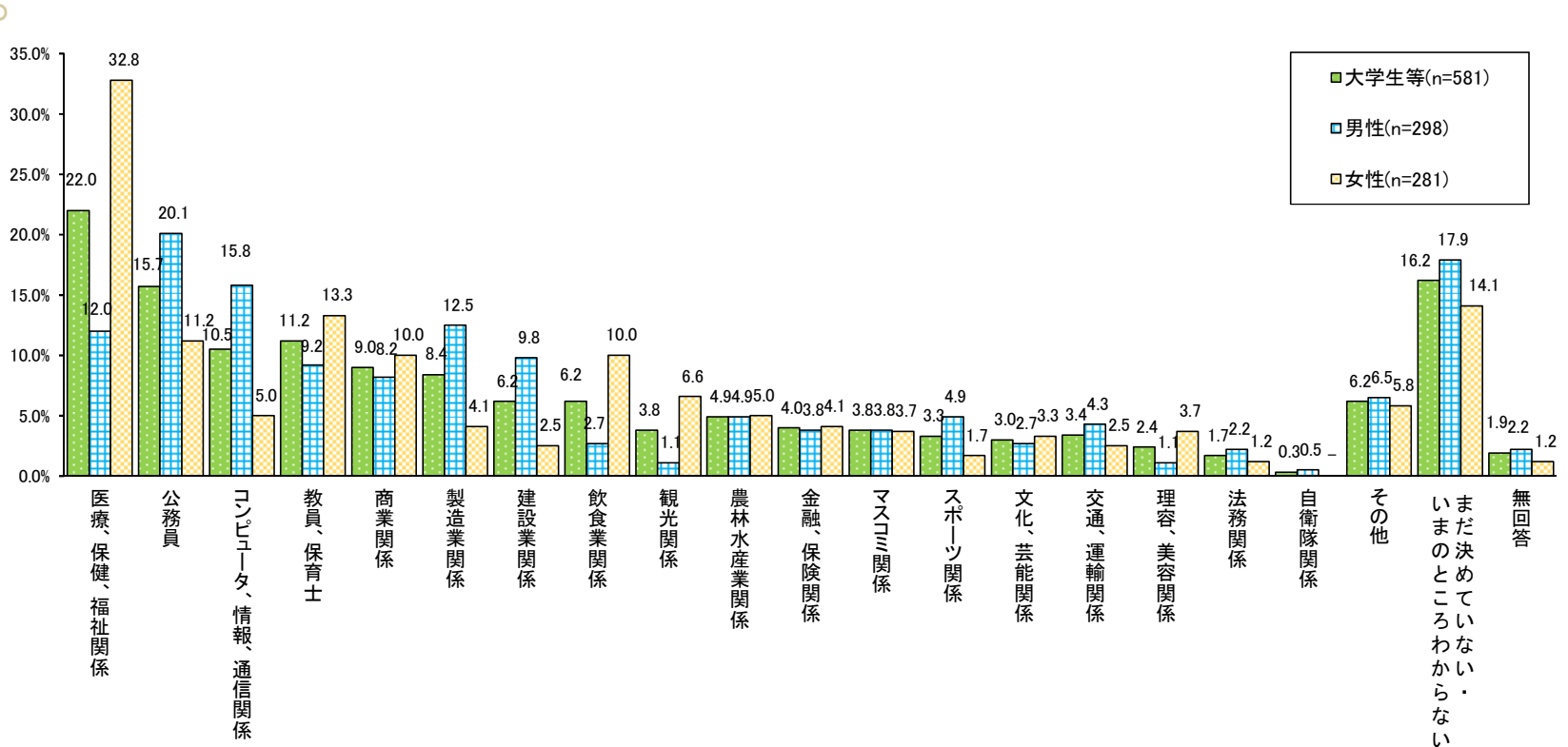


➤【女性】では「医療、保健、福祉関係」が突出して多く、一方、【男性】では「まだ決めていない・いまのところわからない」との回答が最も多くなっています。

IV 進路のこと等について(4)

③希望する職業・職種<性別結果(大学生等調査)>

☆全体結果はウェイト付集計

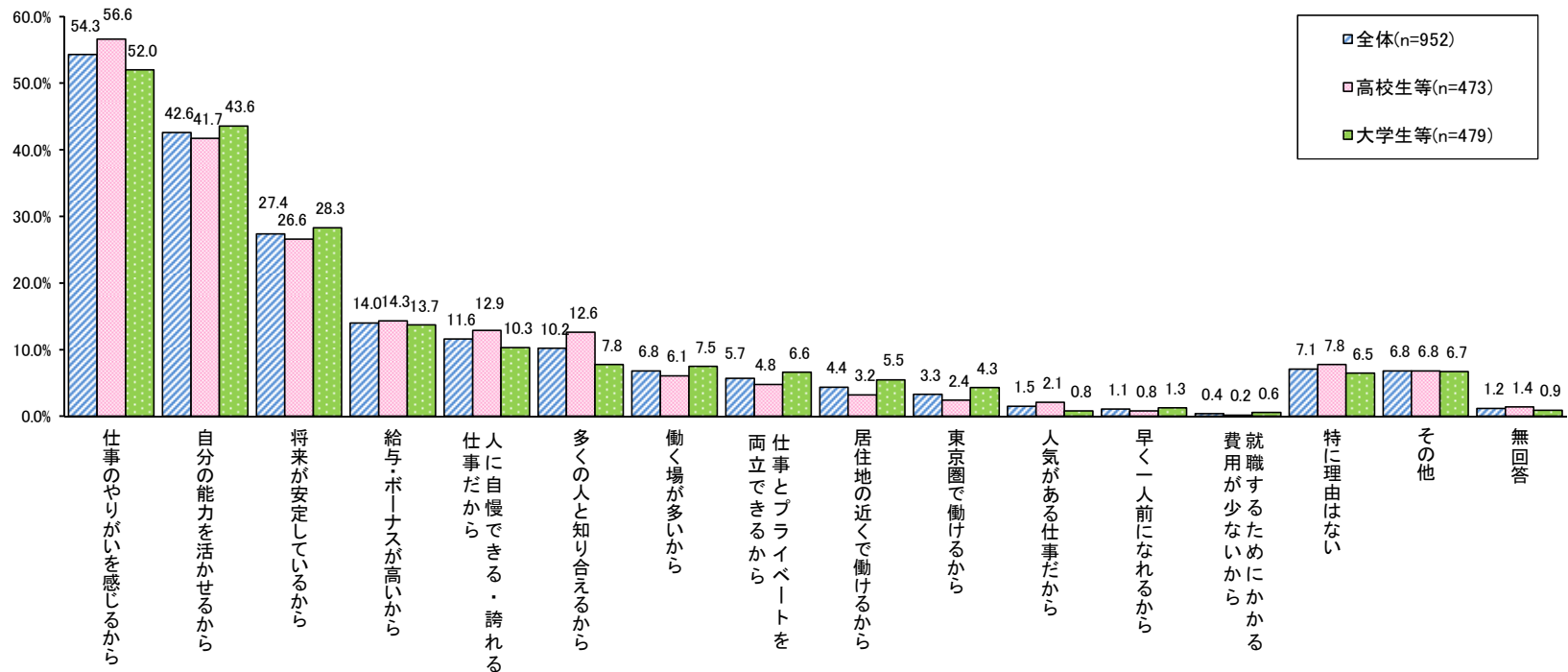


- 【女性】では「医療、保健、福祉関係」、【男性】では「公務員」が最も多くなっています。
- 一方で「まだ決めていない・いまのところわからない」との回答は、【男性】【女性】ともに2番目となっています。

IV 進路のこと等について(5)

④希望する職業・職種を選択した理由（職業・職種を決めている方への設問）

☆全体結果はウェイト付集計

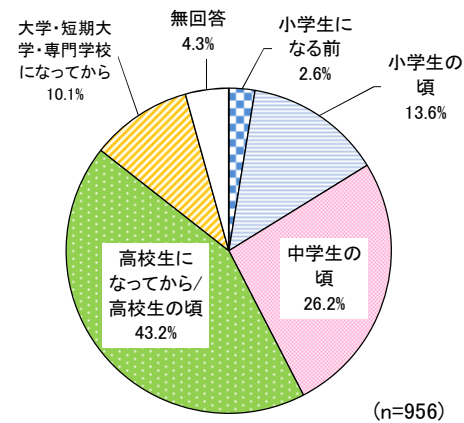


➤ 【高校生等】【大学生等】ともに「仕事のやりがいを感じるから」や「自分の能力を活かせるから」といった理由が比較的多くなっています。

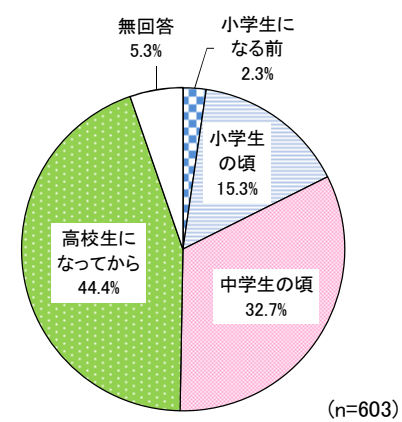
IV 進路のこと等について(6)

⑤将来の職業等を考え始めた時期（職業・職種を決めている方への設問）

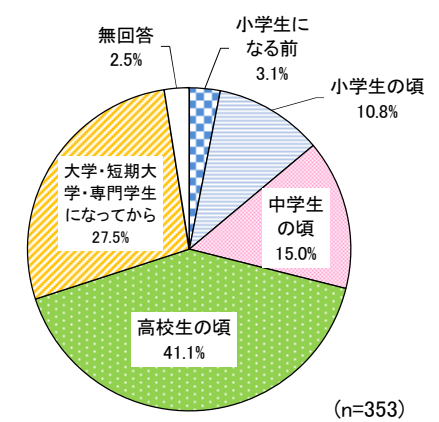
【全体結果】



【高校生等】



【大学生等】

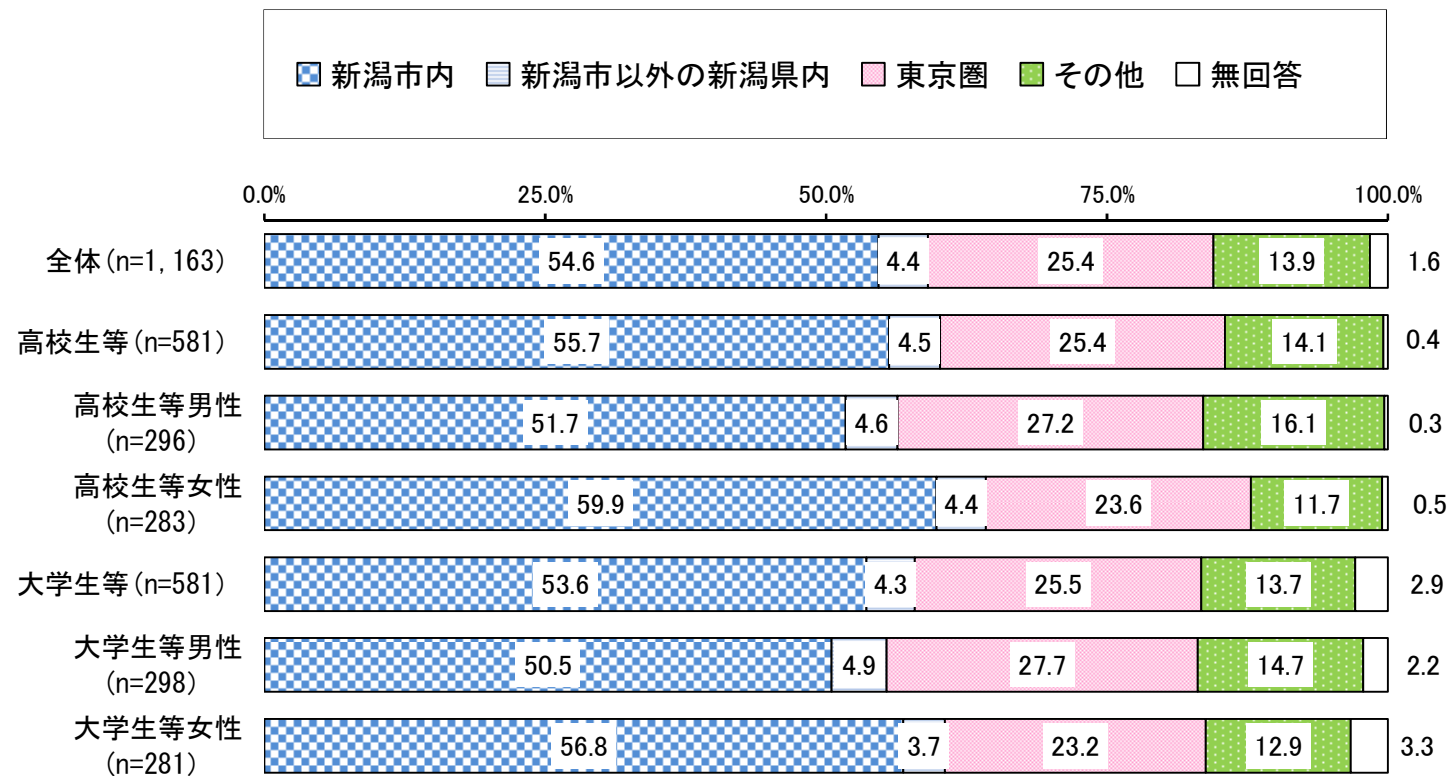


➤ 【高校生等】 【大学生等】ともに「高校生になってから/高校生の頃」が多くを占めています。

IV 進路のこと等について(7)

⑥今後の居住希望地域

☆全体結果はウェイト付集計

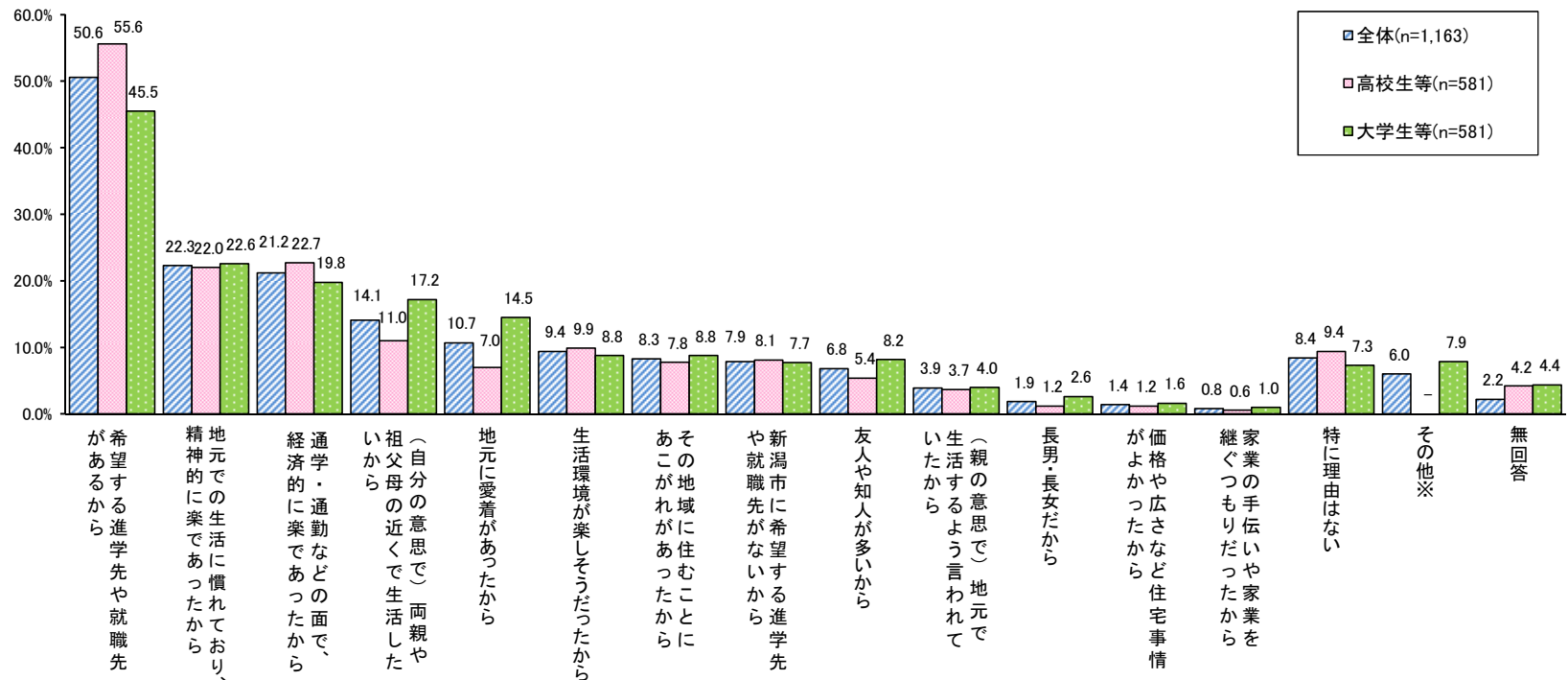


➤ 【高校生等】 【大学生等】ともに「新潟市内」への居住希望者は半数を超えています。

IV 進路のこと等について(8)

⑦希望する卒業後の居住地を選択した理由

☆全体結果はウェイト付集計

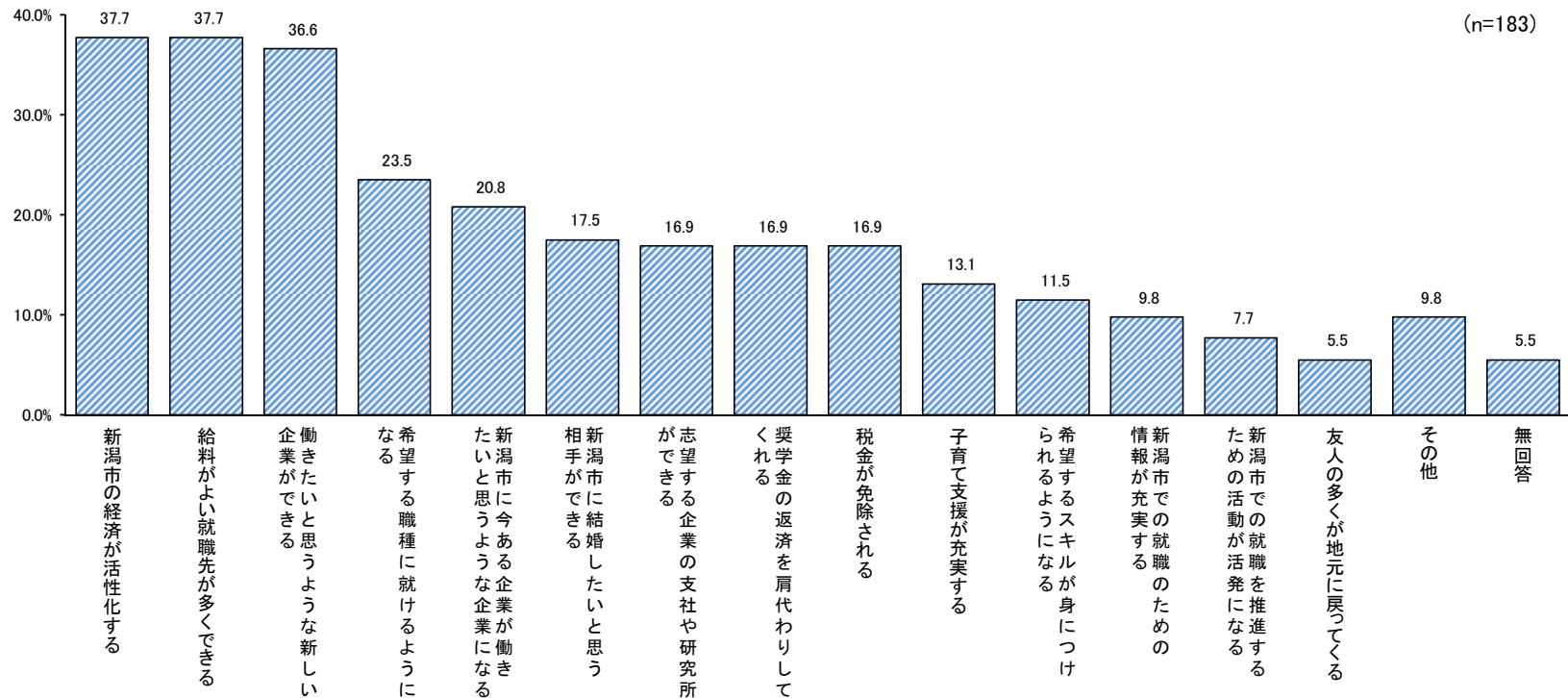


※高校生等は「その他」無し

➤ 【高校生等】 【大学生等】 とともに「希望する進学先や就職先があるから」が半数前後となっています。

IV 進路のこと等について(9)

⑧新潟市に残っても良い条件（新潟市以外の居住先を希望している方への設問）〈大学生等のみ設問〉

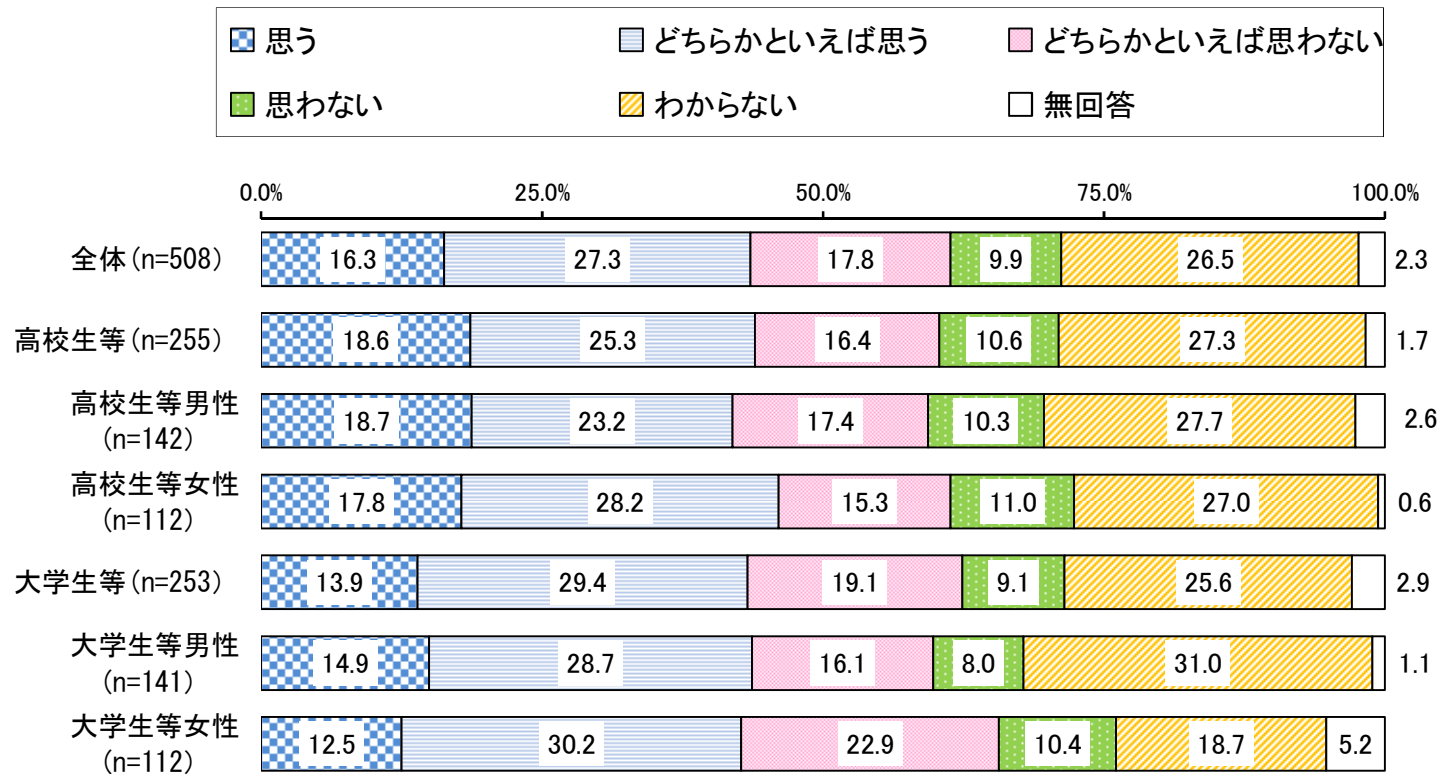


➤ 「新潟市の経済が活性化する」や「給料がよい就職先が多くできる」、「働きたいと思うような新しい企業ができる」といった条件が比較的多く挙げられています。

IV 進路のこと等について(10)

⑨新潟市への帰郷意向（新潟市以外の居住先を希望している方への設問）

☆全体結果はウェイト付集計

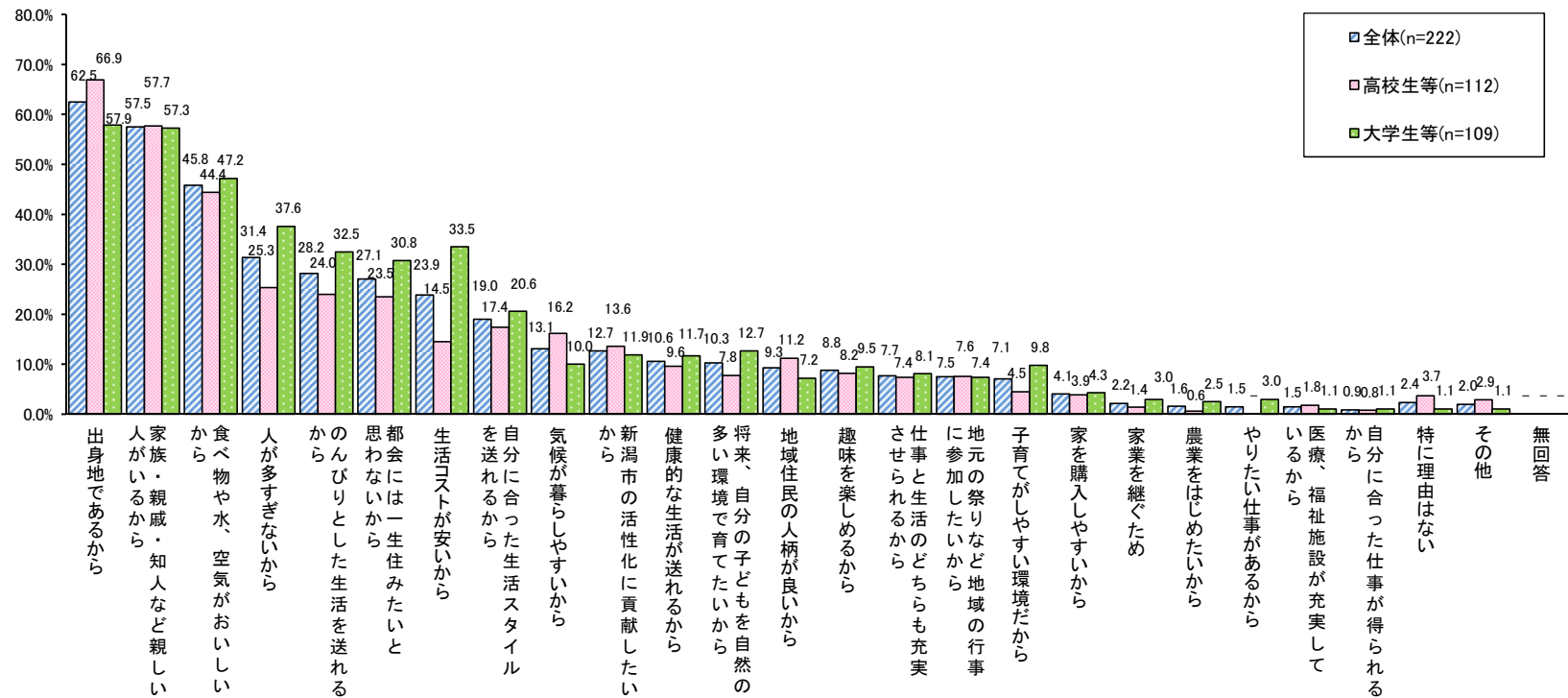


➤ 「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた『帰郷意向者』は、【高校生等】と【大学生等】ともに4割台です。

IV 進路のこと等について(11)

⑩帰郷したい理由（いずれは新潟市へ戻りたいと思っている方への設問）

☆全体結果はウェイト付集計

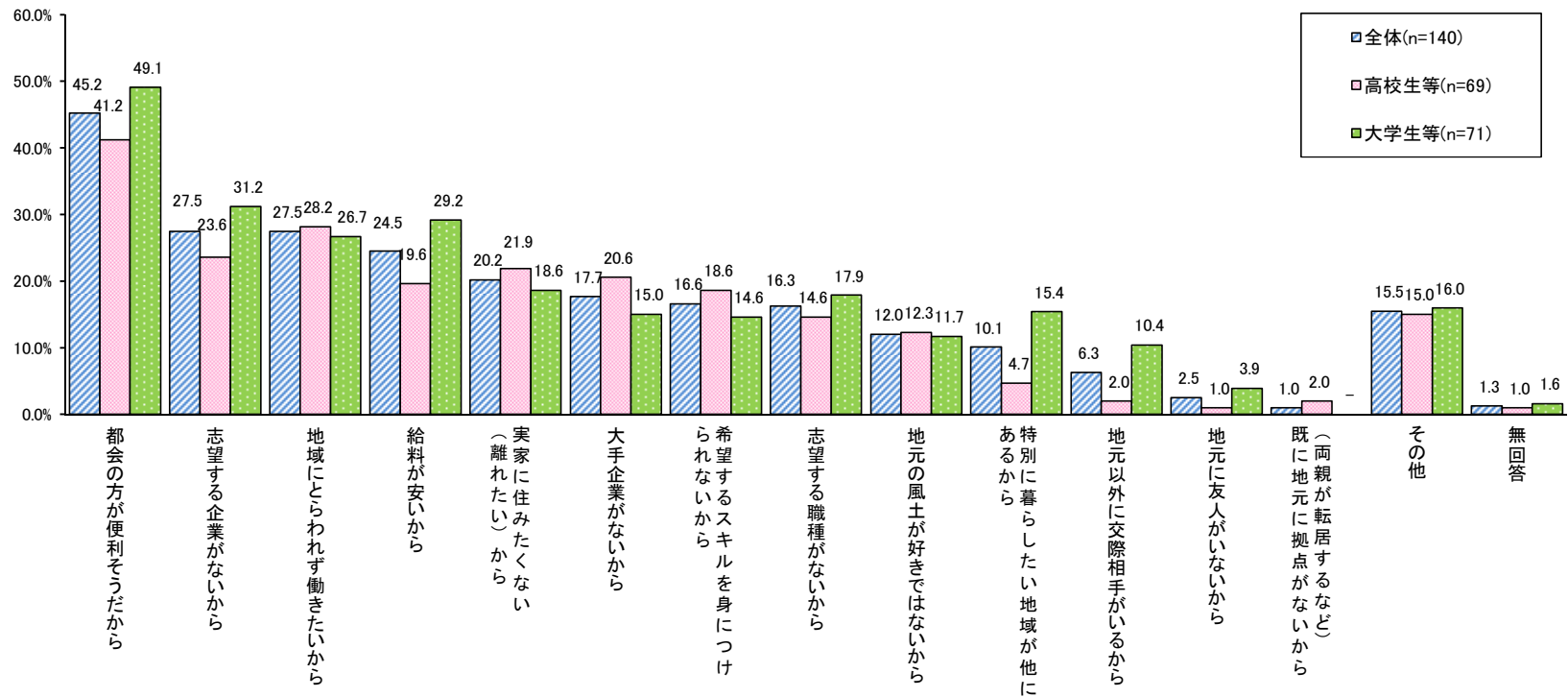


➤ 【高校生等】【大学生等】ともに理由の上位3つは、「出身地であるから」、「家族・親戚・知人など親しい人がいるから」、「食べ物や水、空気がおいしいから」となっています。

IV 進路のこと等について(12)

①帰郷したくない理由（新潟市へ戻りたいとは思っていない方への設問）

☆全体結果はウェイト付集計



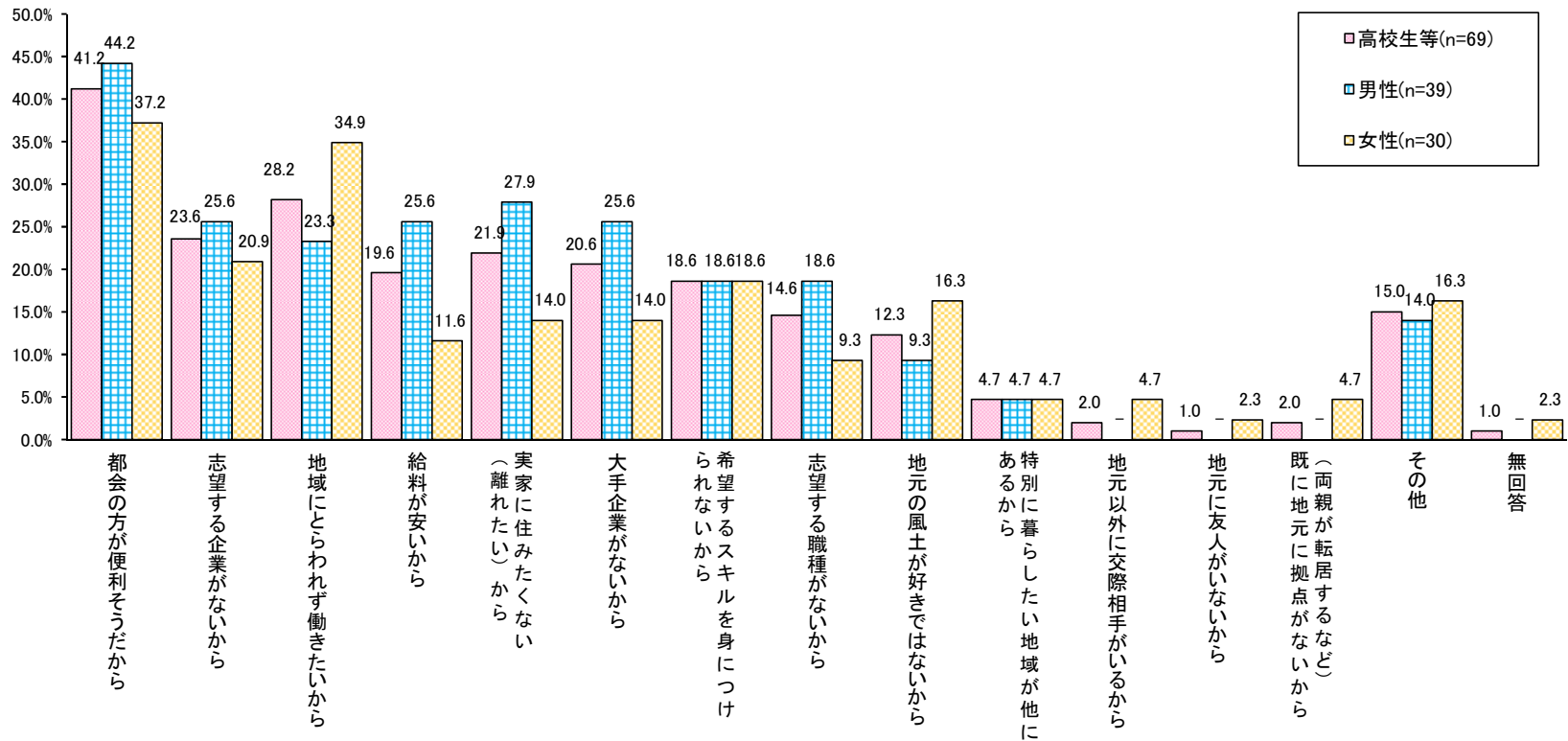
➤ 【高校生等】 【大学生等】ともに帰郷したくない最多理由は、「都会の方が便利そうだから」です。

IV 進路のこと等について(13)

①帰郷したくない理由（新潟市へ戻りたいとは思っていない方への設問）

<性別結果（高校生等調査）>

☆全体結果はウェイト付集計



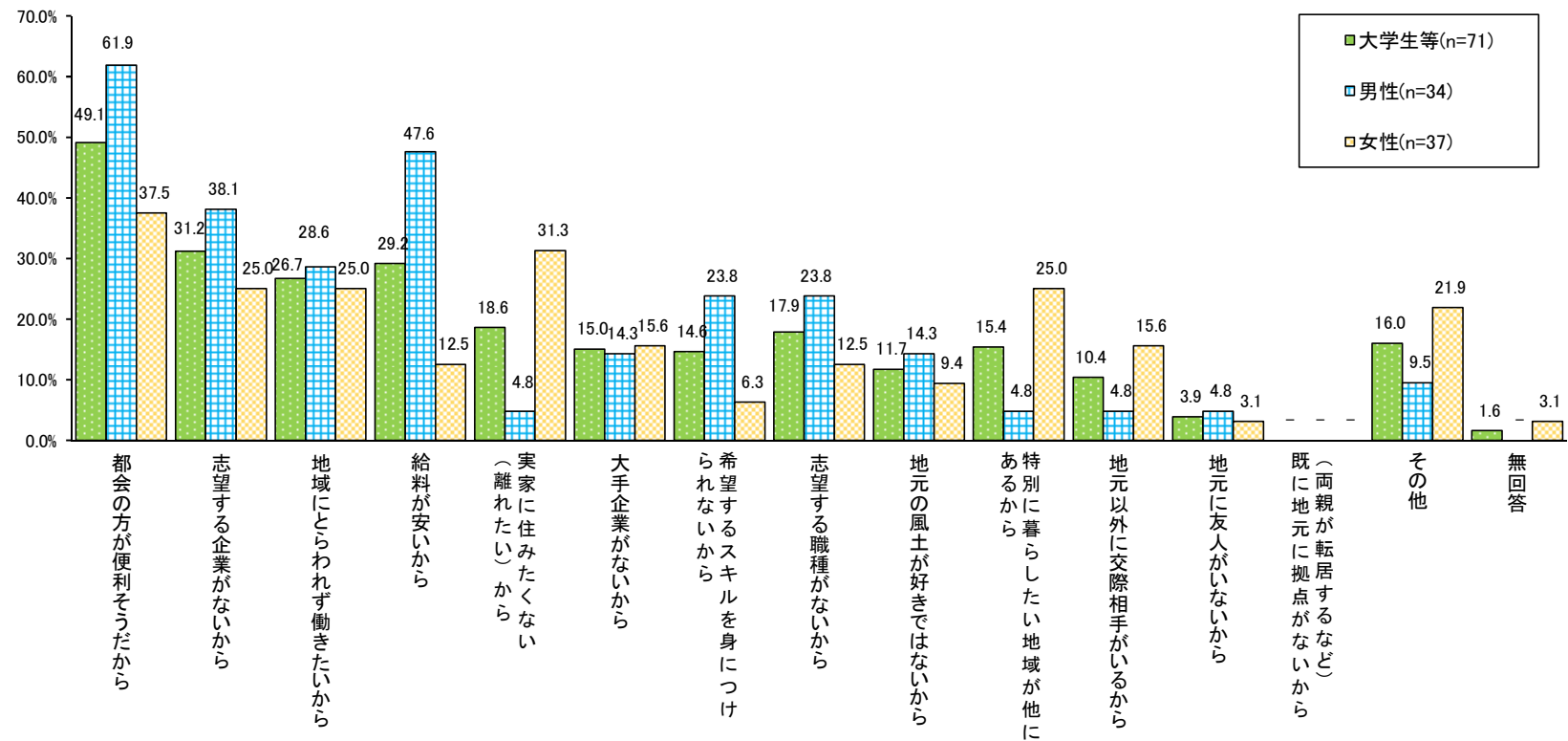
➤ 【男性】【女性】ともに帰郷したくない最多理由は、「都会の方が便利そうだから」です。次いで【男性】では「実家に住みたくないから」、【女性】では「地域にとらわれず働きたいから」との理由が多く挙げられています。

IV 進路のこと等について(14)

①帰郷したくない理由（新潟市へ戻りたいとは思っていない方への設問）

<性別結果（大学生等調査）>

☆全体結果はウェイト付集計

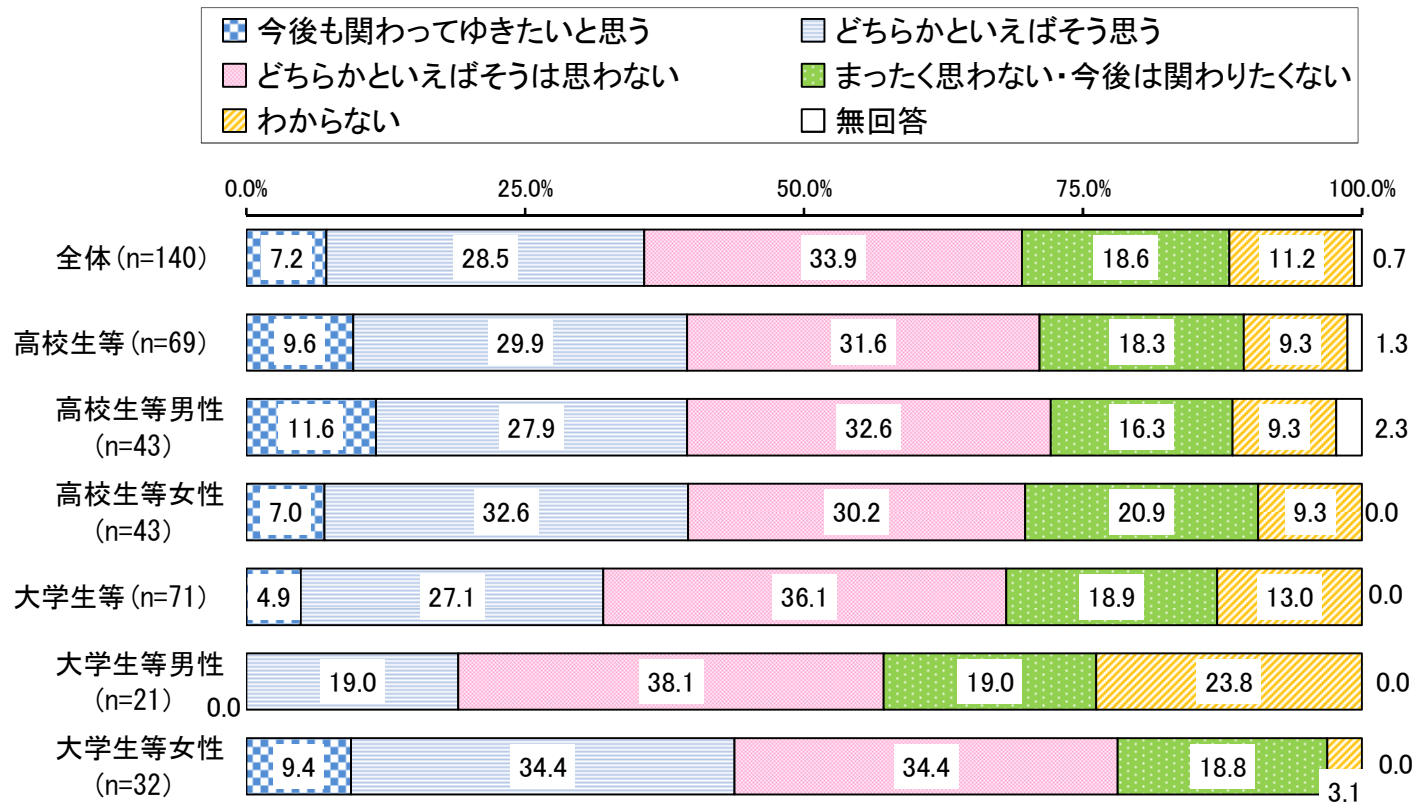


➤ 【男性】【女性】ともに帰郷したくない最多理由は、「都会の方が便利そうだから」です。次いで【男性】では「給料が安いから」、【女性】では「実家に住みたくないから」との理由が多く挙げられています。

IV 進路のこと等について(15)

⑫今後の新潟市との関わり方について（新潟市へ戻りたいとは思っていない方への設問）

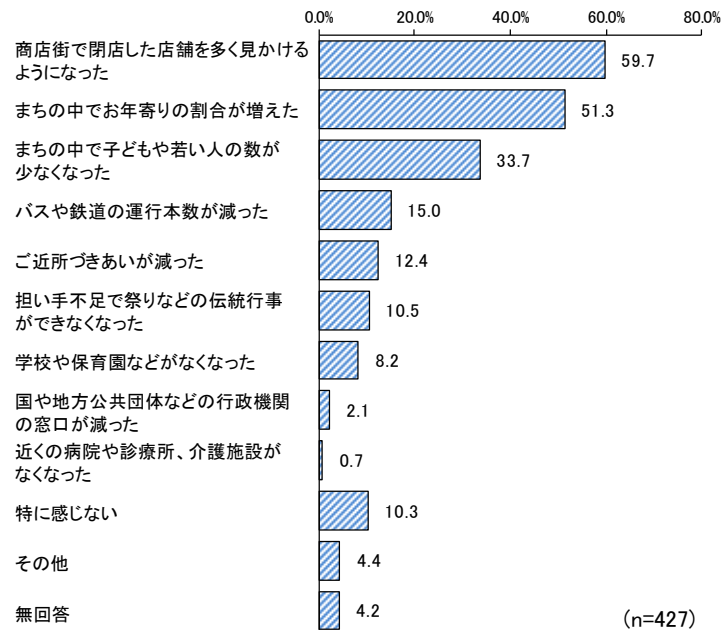
☆全体結果はウェイト付集計



➤ 「今後も関わってゆきたいと思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『関わってゆきたい』方の割合は、【高校生等】は約4割ですが、【大学生等】は3割強まで下がります。

IV 進路のこと等について(16)

⑬人口減少を感じる場面 ＜大学生等のみ設問＞



⑭人口減少を抑制するためのアイデア（自由記載） ＜大学生等のみ設問＞

多種多様な回答が寄せられています。その中からいくつかのアイデアやご意見等を下記に掲載しますのでご参照ください。

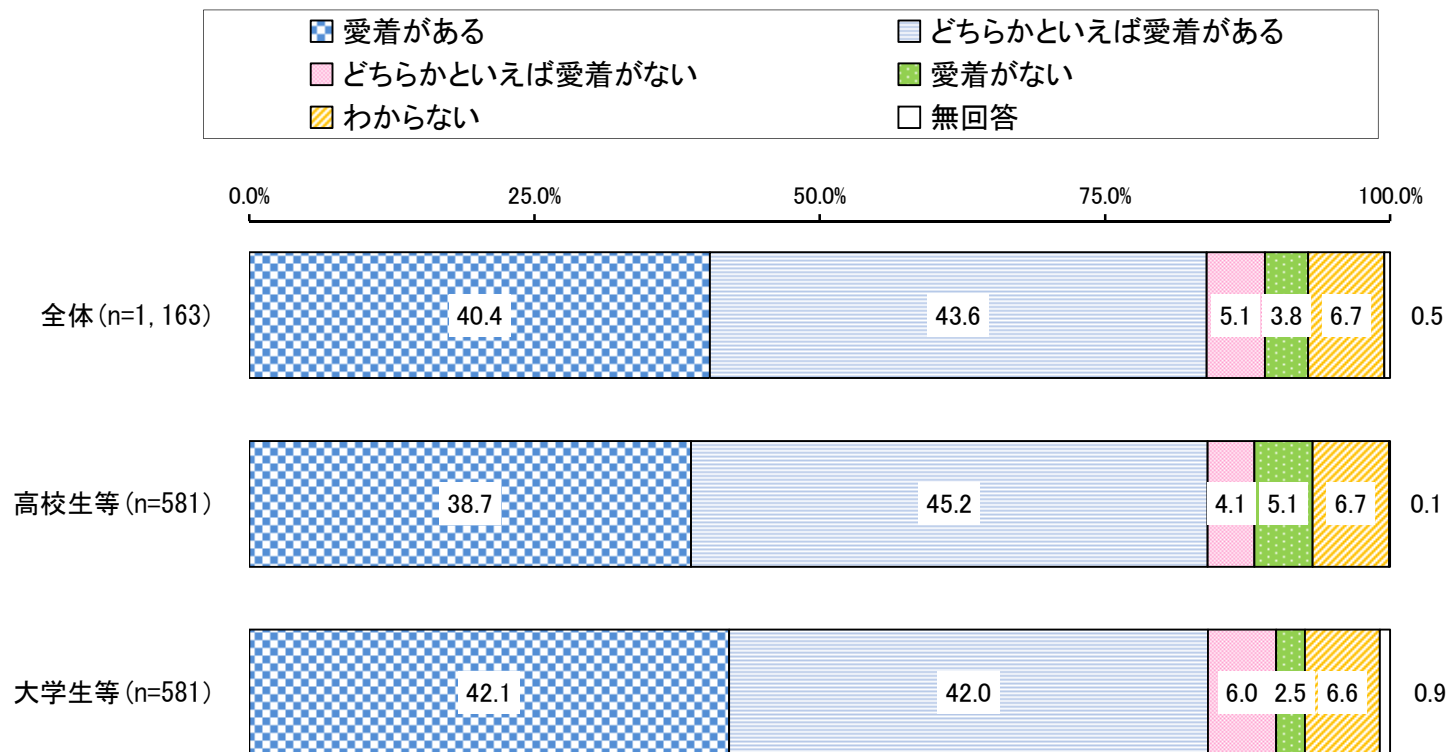
- ◆ 女性、特に若い女性が住みやすいまちづくり。若い女性が新潟市に残れば、男性も自然と残るし、集まると思う。とにかく、若者が町から居なくなることが、人口減少が慢性化する原因だと思う。
- ◆ 地域の祭りなどで親密な交友関係を作り、居心地の良い地元を作る。
- ◆ InstagramやYouTubeなど多くの若者が見ているもので新潟での暮らしを紹介し、魅力を発信し、若者が暮らしたいと思うきっかけを作る。
- ◆ 新潟駅周辺に観光スポットを作る。
- ◆ イベント、講演会、（資格）会場の場を新潟県に多く作り、他県（主に隣県）の方々との交流を増やす。
- ◆ 大きいショッピングモールや遊べる所（遊園地など）を増やして若者が楽しめる場所を増やす。
- ◆ 新潟に残りたいと思うような企業、または外部から新潟に来たいと思うような企業、施設を設ける。
- ◆ 子どもが自由に遊べる施設や、親が安心して預けることのできる場所を増やす。
- ◆ 保育師、教師の負担を減らすことで両者の質を上げること。
- ◆ ふるさと納税のPR、無居住地点の活用（発電所など）在宅雇用の推進。米、酒、苺、枝豆など魅力となる特産品のPR。住みやすさを作る。PRする。

➤ 人口減少を感じる場面については「商店街で閉店した店舗を多く見かけるようになった」や「まちの中でお年寄りの割合が増えた」をあげた方が半数を超えています。

V 新潟市への愛着について(1)

①新潟市への愛着の有無

☆全体結果はウェイト付集計

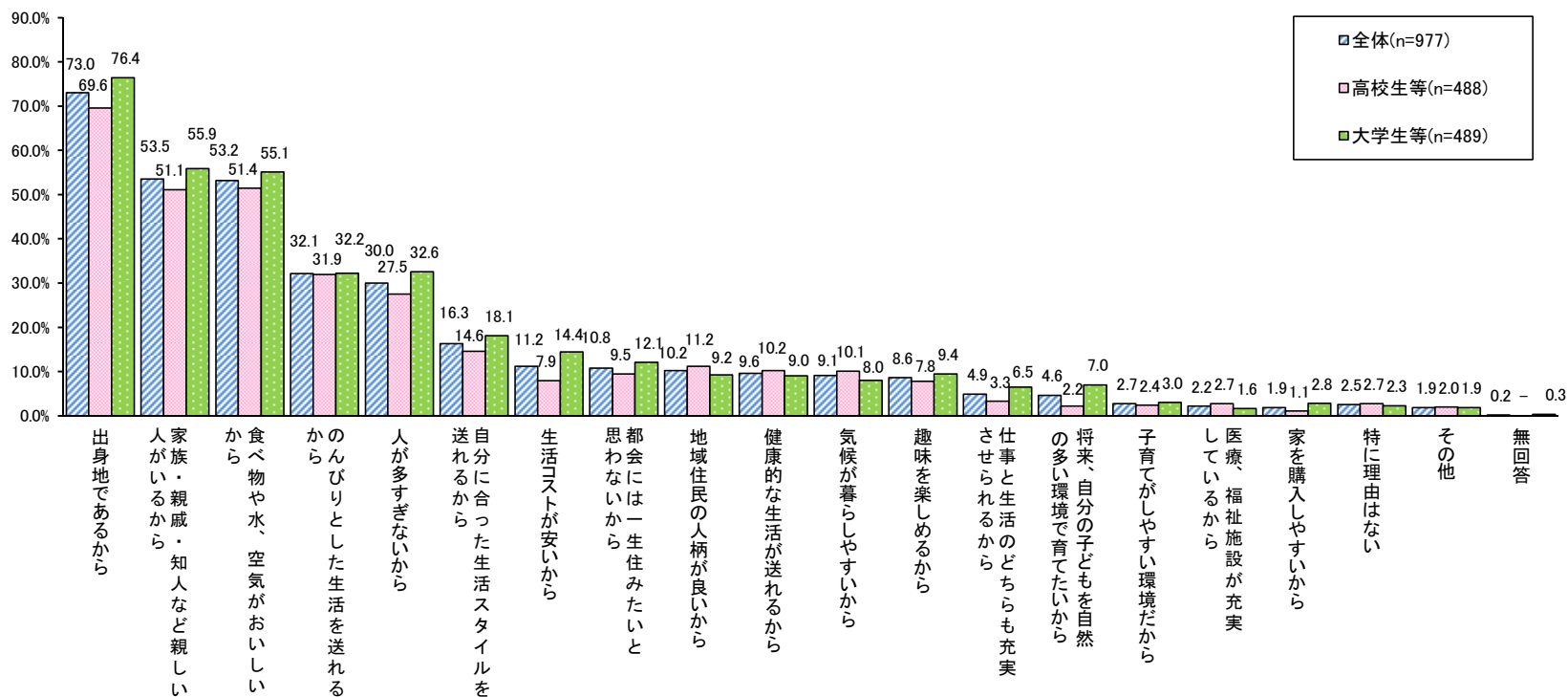


➤ 【高校生等】【大学生等】ともに「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」をあわせた『愛着がある』方が8割を超えています。

V 新潟市への愛着について(2)

②愛着のある事柄（新潟市に愛着がある方への設問）

☆全体結果はウェイト付集計

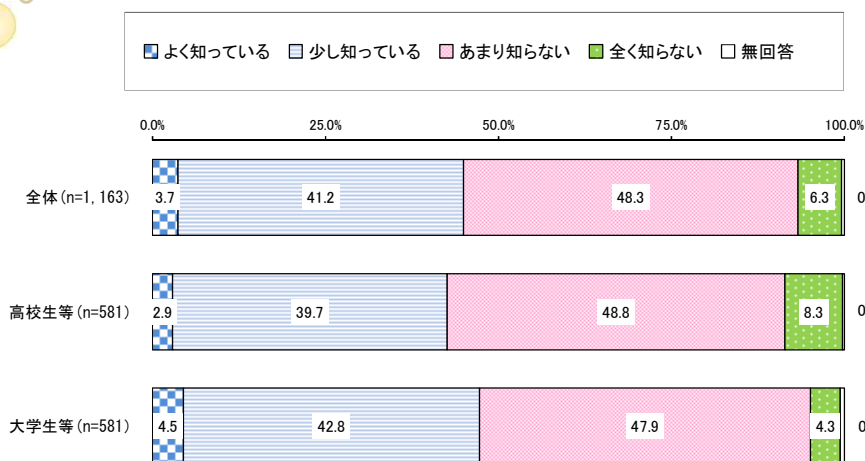


➤ 【高校生等】【大学生等】ともに「出身地であるから」との回答が最も多く、以下、「家族・親戚・知人など親しい人がいるから」、「食べ物や水、空気がおいしいから」といった事柄が多くなっています。

V 新潟市への愛着について(3)

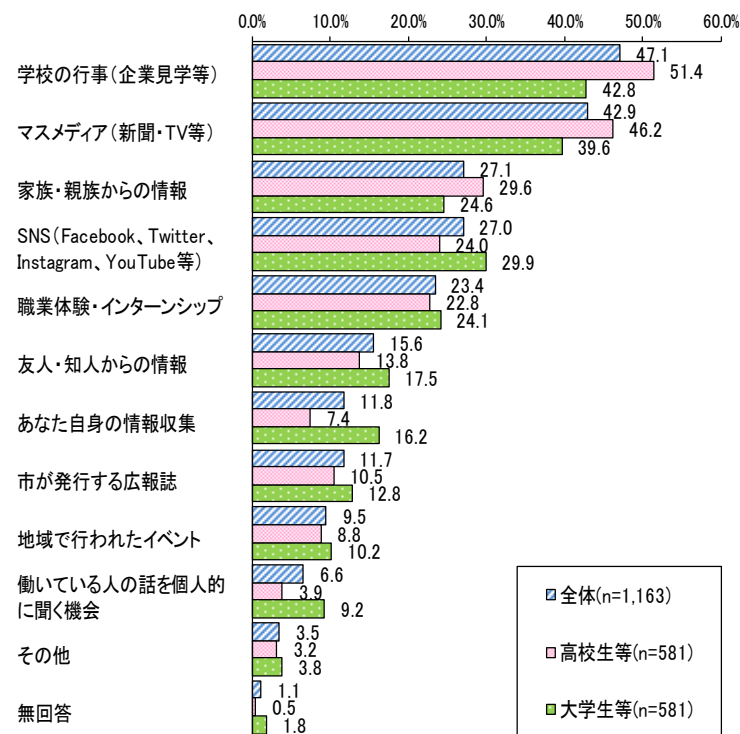
③新潟市内の企業の認知程度

☆全体結果はウェイト付集計



④地元企業に関する情報の入手経路

☆全体結果はウェイト付集計



- 【高校生等】【大学生等】ともに「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた『知っている』方は4割程度です。
- 情報の入手経路については、「学校の行事」や「マスメディア」が上位を占めています。